

業界の軸となれる企業規模へ

新ケミカル商事(株) 上田 幸二郎 社長

化学品、製鉄関連、樹脂、建材、農業製品などの商材を取り扱う専門商社の新ケミカル商事(株)（北九州市小倉北区京町3丁目）の社長に4月1日付で上田幸二郎副社長が昇格した。2025年3月期売上高は初の1000億円を突破し、「化学系専門商社の領域で存在感のある、軸となれる会社を確立したい」と力を込める上田社長に就任の抱負や今後の取り組みなどを聞いた。

（取材・岸田尚大）

北九州市立大学と研究開発などで連携

―まずは就任の感想を聞かせてください。

上田 打診を受けた際は、より若い人にバトンを渡すべきではないかと迷いました。当社は直近3年でグループ内組織再編や中長期計画の始動など大きな変革期にあ

り、手掛けてきた改革がようやく地に足が着いたところ です。それを軌道に乗せること、次世代の経営者を育成することが責務だと考え、就任を決断しました。

私は1983年に新日本製鉄(株)（現日本製鉄(株)）に入社し、20



うえだ こうじろう
上田 幸二郎
社長

北九州市出身。1958年9月6日生まれ。66歳。九州大学経済学部卒。新日本製鉄(株)（現日本製鉄(株)）でのキャリアを経て2021年7月、取締役管理本部長として入社。22年4月代表取締役副社長を経て、25年4月から現職。趣味はテニス、旅行

21年に取締役管理本部長として当社に移りました。これまでの経験を生かし、この会社を次の成長軌道に乗せ、次の世代につないでいきたいです。

―副社長時代と比べて意識面での変化はありましたか。

上田 22年から副社長として油嶋武晴前社長（現会長）とともに会社を経営してきましたので、大きな変化はありません。ただ、トランプ政権の関税問題や中国の過剰生産問題などの影響で事業環境が大きく変化しており、上海や香港、台湾、シンガポールにも拠点を持つ当社としては留意が必要 です。特に中国による過剰生産、低価格輸出で国内の化学系製造業などでは構造的な影響が出始めています。

―その中でどのような戦略を。

上田 副社長時代に企画段階から携わった会社の将来ビジョンを描く中期計画「NCT／ムーンショット計画」が昨年4月からス

タートしています。その中でSDGsの推進、財務体質の強化、グループ内再編、新事業開発、DX推進など8つのアプローチを設定しています。

すでにSDGsの分野では成果が出ており、プラスチックや「もみ殻」のリサイクル、高炉スラグ原料への置き換えによる二酸化炭素の排出抑制など、サーキュラーエコノミーにつながる取り組みを展開しています。そのほか新事業開発では、今年から北九州市立大学とカーボンニュートラル実現に向けた研究開発などで連携を始めました。未利用資源の有効活用などの取り組みを通じて2023年時点ですでに30%だった環境商材比率を30年度には50%まで拡充を目指します。

売上高としては、30年度の間目標では1500億円、最終年度の50年度には3000億円を掲げています。目標とする、化学系専門商社の領域で存在感のある、再編の軸となれる会社を確立するためスピード感をもって取り組みたいです。

建材、アグリ事業好調で売上高1000億円超

―2025年3月期決算についてお聞きします。

上田 グループ売上高は前期比7・4%増の1057億円で、2004年の設立時から約4倍となる1000億円を突破しました。5つの事業セグメントのうち、特に建材、アグリ事業が好調に推移したことが増収の要因です。

建材セグメントでは、23年度にグループ内組織再編を実施し、当社の建材事業本部をグループ会社のNC建材(株)（北九州市）に事業統合しました。NC建材を中核に、建設資材販売と建設工事の(株)灰孝本店（京都市）、建材、セメント輸送などの(株)NCT四倉（福岡県）の3社で展開しています。資材価格高騰や労働力不足が業界の課題として挙げられる中、主要取引先の高い活動水準、セメントをはじめとする取り扱い商材の価格転嫁などが進み、セグメント売上高は前年比4・2%増の402億円とグループ全体をけん引しました。

アグリセグメントでは、昨年4

月にグループ内組織再編の一環で昭光通商アグリ(株)（東京都）とみらいアグリ(株)（福岡市）を統合し、NCTアグリ(株)（東京都、長谷川恵章社長）を設立しました。近年肥料業界では、価格の動きが激しいことで需要水準がコロナ禍以前に戻らない逆風下にあります。そのような中で、単身世帯や共働き世帯の増加で加工用野菜の需要が高まっているため、レタスやキャベツなどの野菜を加工野菜メーカーに卸す事業を伸ばしたことが収益増に寄与しています。

―今期の見通しについては。

上田 第一四半期は概ね計画通りに進行し、通期ではグループ売上高1100億円を見込んでいます。ただ、トランプ政権の関税問題や中国の過剰生産問題など事業環境の変化もあり、特に化学品や樹脂セグメントでの影響が懸念されます。そのような状況下で最も力を入れることは、昨年度からスタートした中期計画を着実に進めることです。

今年4月には、計画の一つであ

る樹脂セグメントにおけるグループ内組織再編を実施しました。当社の樹脂事業部門、プラスチックリサイクルのNCT化学(株)（東京都）、リサイクル商材製造などのNCTフロンティア(株)（広島市）の営業部門を統合して樹脂製品販売を統括するNCTマテリアル(株)（東京都、油嶋武晴社長）を設立しました。再生材を含む樹脂全般を取り扱うほか、リサイクル用機械、3Dプリンターなどの樹脂関連品も販売します。また、製造部門を担うNCTフロンティアでは、志和工場（東広島市）の設備更新

北九州市門司区出身、九州大学経済学部卒

―出身は北九州市門司区ですね。

上田 はい。小中高は地元の学校に通い、九州大学経済学部に進みました。

―どのような学生生活を。

上田 高校までは体育会系の剣道部でしたが、大学では経済研究サークルに所属し、仲間と議論しながらお酒を飲んでいました（笑い）。ただ、身体を動かすことは好きで今はテニスを毎週しています。家の近くにテニススクールが

あり、健康維持のために続けています。また、大学時代のアルバイトは家庭教師と文化財や遺跡発掘の助手をしていました。

―変わったアルバイトですね。

上田 実際に発掘するのは県や市などの職員の方で、私は遺跡の測量や写真撮影などのアシスタントが主な仕事でした。元々考古学には興味があったため、福岡県内で見つかった銅鐸の鋳型が新聞に載ったときは嬉しかったです。